

エコアクション21

環境経営レポート

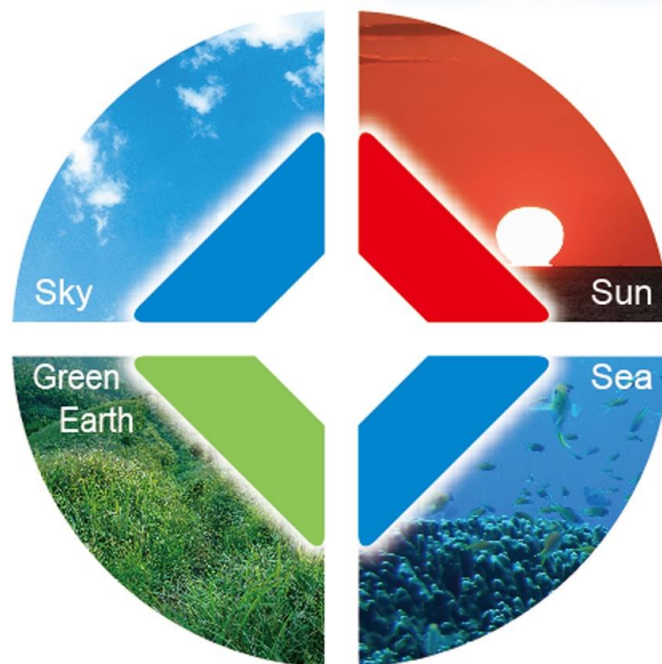
対象期間: 2020年4月～2021年3月

Nippon Housou System の願い

Nature 自然にやさしく……

Human 人が豊かに……

Smiles そして笑顔に!



発行日 2021年 7月 20日
作成者 飯塚 宣人

目次

表紙	P1
目次	P2
Ⅰ．会社概要・事業内容	P3
Ⅱ．環境経営方針	P4
Ⅲ．環境経営活動実施体制	P5
Ⅳ．環境経営目標	P6
Ⅴ．実績	P7 ～
Ⅵ．次年度の活動計画	P12 ～
Ⅶ．環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P14
Ⅶ．代表者による全体評価と見直しの結果	P15

I. 会社概要・事業内容

(1) 事業者名及び代表者名

日本包装システム 株式会社

代表取締役社長 池畠 正英

(2) 所在地

本社工場 〒379-2153 群馬県 前橋市 上大島町 182

共同工場 〒379-2154 群馬県 前橋市 天川大島町 1310-4

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者： 管理部 飯塚 宣人

EA-21事務局： 管理部 小宮 由香利

連絡先 TEL： 027-261-4455

FAX： 027-261-4456

E-mail： n.iiduka@nhs-1972.co.jp

(4) 事業活動の内容

紙製容器・包装資材の開発、製造および販売

(5) 事業規模 (2020年度)

主要製品の生産量： 1015 t

売上高： 518百万円

資本金： 6,000万円

従業員数： 47人

延べ床面積： 3,715.03m²

(6) 対象範囲 (認証・登録範囲)

上記 (2) に該当する所在地と (4) に該当する活動内容

Ⅱ. 環境経営方針

環境経営方針

日本包装システム株式会社は、私たちの未来のため、
循環型社会の実現と環境負荷の低減を推進します。

1. 当社は事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め全員参加で継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法令、規制を遵守するとともに、行政・団体・地域との協力体制を確立します。
3. 当社は環境に与える影響を考慮し、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① エネルギー使用量・水資源使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減とリサイクルを目的とした分別回収
4. 当社は文化的生活の向上と環境負荷低減の両立を目指し、安全で効率のよい生産活動を追求します。
5. 社会の一員として環境保全に関する啓蒙・啓発に努めます。

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009年4月1日
改定日 2016年4月1日
改定日 2018年4月1日

日本包装システム株式会社

代表取締役社長

池 島 正 英



Ⅲ. 環境経営活動実施体制

代表者(社長)	1. 環境経営方針の策定 2. 経営資源の準備
池畠 正英	3. 代表者による全体の評価と見直し 4. 環境経営レポートの承認 5. 環境目標及び環境経営活動計画の承認

EA-21 責任者	1. EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施
飯塚 宣人	3. 環境経営目標及び環境活動計画の策定 4. 環境経営レポートの作成 5. EA-21に関する実績把握と報告 6. EA-21環境経営マニュアルの作成

	人員
役員	2 名
管理職	7 名
一般	28 名
パート・人派	10 名
合計	47 名

2020年4月現在

製造部	田島 和憲	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
営業部	小貫 敦	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
品質管理部	森 克美	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
管理部	高橋 正利	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置

EA-21委員会	1. 環境経営目標及び環境経営活動の結果確認 2. EA-21に関する審議
委員長：池畠 正英 飯塚 宣人・小宮 由香利・高橋 正利 松本 宏志・田島 和憲・蒔苗 徹・鈴木 寿晴	

EA-21事務局	1. EA-21責任者の補佐業務 2. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3. 教育、訓練計画の策定・実施（緊急時対応訓練 等） 4. 環境文書及び記録の作成、管理 5. その他EA-21に関する業務
小宮 由香利	

Ⅳ. 環境経営目標

当社の環境目標の設定は、2017年度のデータを基準として2018～2020年度の目標といたしました。

取組項目	2017年度実績 (基準値)		2018年度	2019年度	2020年度
電気使用量の削減	本社	CO2換算 3.07kg/万円	1%削減	1.5%削減	2%削減
	共同	CO2換算 2.41kg/万円			
燃料使用量の削減 営業車使用燃料 (ガソリン・軽油)	本社	CO2換算 0.203kg/万円	1%削減	2%削減	3%削減
	共同	CO2換算 0.90kg/万円			
廃棄物の削減 ① (古紙回収)の削減	本社	一万円あたりの使用量 4.22kg/万円	0.5%削減	0.8%削減	1%削減
	共同	一万円あたりの使用量 6.30kg/万円			
廃棄物の削減 ② (廃プラ)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.046kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1%削減
	共同	一万円あたりの使用量 0.046kg/万円			
廃棄物の削減 ③ (鉄・ガラス・その他)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.01kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1%削減
	共同	一万円あたりの使用量 0.018kg/万円			
水資源使用量の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.010m ³ /万円	0.1%削減	0.2%削減	0.3%削減
	共同	一万円あたりの使用量 0.009m ³ /万円			
グリーン購入の促進	38品目		2品目増	4品目増	6品目増
自らが生産・販売・ 提供する製品、及び サービスに関する 環境目標	次年度の活動計画にて掲げた施策の実行と継続				
化学物質使用量 の削減	_____		_____	_____	_____

V. 実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ※1. 実績値は、2020年度運用期間(4月～3月)の1年間と、基準年度2017年度の同月の値と比較する。
- ※3. 総量は4月から3月の1年間の合計とする。
- ※4. 単位は、売上金額1万円当たりの使用量とする。
- ※5. 購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数は0.475。
- ※6. ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.32。
- ※7. 軽油の二酸化炭素排出係数は2.58。

実績 一覧

本社工場	2017年度基準値	2020年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	3.07kg/万円	3.27kg/万円	93.88%	×
燃料使用量の削減	0.203kg/万円	0.116kg/万円	175.00%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	4.22kg/万円	4.38kg/万円	96.34%	×
廃棄物(廃プラ)の削減	0.046kg/万円	0.065kg/万円	70.76%	×
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.01kg/万円	0.03kg/万円	33.33%	×
水資源使用量の削減	0.010m ³ /万円	0.012m ³ /万円	71.42%	×
グリーン購入の推進	38品目	32品目	86.48%	×

○ 達成 × 未達成

共同工場	2017年度基準値	2020年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	2.41kg/万円	2.29kg/万円	105.24%	○
燃料使用量の削減	0.90kg/万円	0.674kg/万円	133.53%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	6.30kg/万円	6.94kg/万円	90.77%	×
廃棄物(廃プラ)の削減	0.046kg/万円	0.049kg/万円	93.87%	×
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.018kg/万円	0.01kg/万円	180.00%	○
水資源使用量の削減	0.009m ³ /万円	0.010m ³ /万円	90.00%	×

主な環境負荷実績(総量)

環境への負荷	2017年度(基準年)	2020年度(対象年度)
Co2排出量(Kg-Co2)	162,610	147,877
廃棄物排出量(t)	265	240
水使用量(m3)	561	567

電気使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(5月)	◎	継続	新型コロナウイルス対策の為に、可能な限り空気の循環を意識して事務所は窓を開け、換気に重点を置きました。 共同工場は、1階エアコンを1台新規入替えを行いました。
未使用の電気、電源のOFF	○	継続	
エアコン温度の設定	○	継続	
トイレ便座の温度設定	◎	継続	
エアータオル就業時間外の電源OFF	-	継続	
空調フィルターの定期清掃	○	継続	
デマンド監視装置の活用	△	継続	

◎良くできた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

燃料使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(2月)	◎	継続	新型コロナウイルスの影響で、営業活動に車両を利用する頻度は減少しました。 トラックの使用に関しては、エコドライブ実践の継続と燃費チェックの継続で、より効果的な使い分けを実施する必要があります。
燃料使用量・走行距離チェック	◎	継続	
エコドライブ診断の実施	×	継続	
エコドライブ講習会への参加	×	継続	

廃棄物(古紙回収)の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(6月)	◎	継続	本社は打抜き生産量が減少、共同工場は逆に増加。(設備、生産体制の変更)新型コロナウイルスの影響により、生産量自体は減少していますので正確な数値を把握する為に、来年度の数値結果にも注視していきます。
新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)	×	継続	
分別廃棄の継続	○	継続	
私物ゴミ持ち帰りの徹底	◎	継続	
調整時ロスの削減	△	継続	
ロスの早期発見と対応	△	継続	

廃棄物(廃プラ)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(8月)	◎	継続	廃棄マニフェストは電子化実施。 材料入荷時のストレッチフィルム の使用量は更に増加傾向、減少する 見込みは低いので自社で排出する 分の対策が必要です。 ブランク納品時のプラパレ化は順 調に移行してきています。
資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底	◎	継続	
ブランク納品時のプラパレ化を依頼	◎	継続	

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

廃棄物(鉄・ガラス等)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(8月)	◎	継続	木製パレット・木くずの処理は問 題なく対応出来ています。 蛍光灯の管理に関しても、同様に 対応出来ています。 ステンレス板の廃棄スケジュール 化は、対応が出来ない状態が続き 今後の課題です。
木製パレット・木くずの適正処理	◎	継続	
廃棄蛍光灯の管理徹底	◎	継続	

水資源使用量の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(12月)	◎	継続	本社工場は新型コロナウイルスの 影響で生産数が減少となり実績使 用量も減少しました。 共同工場は製函機が本格的に稼働 し始めたことや、人員も増加した ことにより実績使用量も増加とな りました。
節水継続意識向上の継続	△	継続	
手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める。	◎	継続	
本社 成型工場、共同 2階洗い場の蛇 口レバーを長い形状のものへ変更(検 討)	×	継続	

グリーン購入の推進

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
グリーン購入品の促進	△	継続	前々年度よりグリーン購入の推進 は取り組み対象外となっています が、自主的に取り組んでいます。 今年度は目標数に届かず未達成と なりましたが、継続して取り組ん でいきます。

環境保全取組実施率の向上

① 管理者・従業員の教育

- ・毎月初日に全社員が集まり、環境に関するミーティング(全体ミーティング)を実施しました。
- ・更に全体ミーティング内で、生産技術課による技術向上を目的とした取り組みを発表しました。



＜全体ミーティングの一例＞



＜生産技術課の発表の様子＞

- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を行いました。
- ・安全・衛生委員会による業務中における事故発生の予防を目的とした取り組みを発表しました。



＜講習の様子＞



＜安全・衛生委員会の発表の様子＞

- ・9月1日は、本来であれば火災や災害が発生した時の為の避難訓練を行う予定でしたが、今年度は新型コロナウイルスによる集団感染を避ける為に避難訓練を実施せず、災害が発生した場合を想定し、避難活動の際に注意すべきポイントや具体例などの説明しました。避難するタイミングや家族との連絡方法・避難場所の確認、危険から遠ざかり命を守る行動の実践について説明しました。
 - ・11月の全体ミーティングでは、エコアクション21の活動内容や理念などを分かりやすく説明しました。社員ごとに活動内容の理解度にバラつきが出ないように、定期的に行う必要があります。
- ② その他、入口に「アイドリングストップ」の表示をして、当社出入りの業者さんに対して環境保全活動の協力依頼をしています。

その他の環境への取り組み事例



デマンド監視装置



不使用蛍光灯の電源OFF



機械撤去と照明をLED化



共同工場の打抜き機械を入れ替え

★2020年度に行った環境への効果が見込める取り組み★

- ① 2月に共同工場に原紙反転機を新規導入しました。(合理化)
- ② 8月に本社工場の紙皿成型機を1台撤去しました。撤去に伴い工場レイアウトを変更し、電力消費の大きいエアコンも撤去しました。(省電力化)
- ③ 9月に共同工場の賃貸倉庫を返却しました。(省電力化)
- ④ 10月に本社工場の紙皿成型機を1台入れ替えました。(省電力化)

FSC® COC認証の取得

「FSC COC認証」を2018年3月9日に取得後、弊社でも生産量が徐々に増加してきました。環境に対する社会の取り組み方がここ数年で大きく変化してきています。FSC COC認証は其中でも弊社が力を入れている取り組みです。取引先や消費者に対して責任ある製品を生産することで、環境問題に真摯に向き合っていきます。

＜弊社FSC認証情報＞

認証登録番号 : SA-COC-006218
 ライセンス番号 : FSC® C140095
 認証発行日 : 2018年3月9日
 有効期限 : 2023年3月8日



化学物質使用量の削減

定期的(7月・11月・3月)に保管場所と管理方法の確認を行いました。

V. 次年度の活動計画

当社は、環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施していきます。

(1) 電気使用量の削減

- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・エアコン温度の設定
- ・トイレ便座の温度設定(夏季：OFF、冬：ON)
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
(季節ごとに1時間毎に数値を測定)
- ・電気管理業者のサポートによる使用電力削減
- ・電気使用量の削減の取り組み発表(4月)

(2) 燃料使用量の削減

- ・燃料使用量・走行距離チェック(3カ月毎)
- ・エコドライブ講習会への参加
- ・燃料使用量削減の取り組み発表(2月)

(3) 廃棄物の削減(古紙回収)

- ・新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)
- ・分別廃棄の継続(本社工場・共同工場)
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・不良率の削減
調整時ロスの削減
ロスの早期発見と対応
- ・不良率低減の取り組みを発表(5月)

(4) 廃棄物の削減(廃プラ・鉄・ガラス他)

- ◎廃プラ／鉄／ガラス他 共通事項
 - ・資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底
(一般ゴミ内の資源ゴミ混入防止の徹底)
 - ・廃棄物の削減の取り組みの発表(8月)
- ◎ガラス他
 - ・使用済み蛍光灯の廃棄・管理の徹底
 - ・ブランク納品時、プラパレでの納入を依頼

(5) 水資源使用量の削減

- ◎本社工場
 - ・節水意識向上の継続
(手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める)
 - ・成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
- ◎共同工場
 - ・節水意識向上の啓蒙啓発
 - ・2階手洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
 - ・水資源使用量削減の取り組み発表(12月)

(6) グリーン購入の促進

- ・グリーン購入法に対応した品物の購入の継続

(7) 環境保全取組実施率の向上

- ・毎月1日に全体ミーティングにてEA21の取り組み発表や環境教育等を実施
- ・部門別責任者と担当者の発表、年間スケジュールの発表（4月）
- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を予定（7月）
- ・避難訓練「火災防火訓練」（9月）
- ・緊急事態対応訓練の実施（11月）
- ・施策の成果と反省（3月）

(8) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新製品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割り付けを心掛け、原紙のロスを軽減します。
- ・新製品を生産する際に、環境に配慮した材質、リサイクルが可能な材質の使用を心掛けます。

(9) 化学物質使用量の削減

- ・保管と管理の確認を定期的に行います。

Ⅵ. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りです。
 また、関連法規制の遵守状況確認を毎年2回実施しており、違反はありませんでした。
 地域住民からのクレームもありませんでした。
 同様に関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法 循環型社会形成推進基本法 群馬県環境基本条例 群馬県の生活環境を保全する条例 前橋環境基本条例	廃棄物の削減 廃棄物の適正処置の確保 産業廃棄物保管基準遵守 廃棄物の飛散・流出・地下浸水の防止 産業廃棄物処理委託基準の遵守 産業廃棄物の委託契約書の記載事項の遵守 産業廃棄物管理票の管理義務	遵守確認済
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	廃棄時の引き取り業者への 引渡し料金の支払い	本年度廃棄無し
消防法(危険物関連) 前橋市火災予防条例	少量危険物貯蔵所設置の届出 基準在庫管理	基準在庫以下確認 廃止届け提出
容器包装リサイクル法	毎年度、その生産量に応じて 再商品化義務量の再商品化	遵守確認済
下水道法	排水基準の厳守	排水基準量以下 確認
CSR(社会的責任)調達 (トッパングループ)	エコアクション21に適用	遵守確認済
騒音規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
振動規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
フロン排出抑制法	該当設備を管理者により定期点検 廃棄時の回収業者への引渡し	実施済 本年度廃棄無し

Ⅶ. 代表者による全体評価と見直しの結果

2020年度は新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。人の動きが止まり、経済の動きが変わり、様々な影響が当社の事業活動にも大きな変化をもたらしました。

そんな状況での環境活動としましては、今までの活動は継続しつつも今後想定される環境の変化をイメージしながらの試行錯誤だったように思います。設備の面では昨年度に続き老朽化した生産機械の入れ替えが計画され、若干の遅れは生じたもののほぼ予定通り実施されました。この取り組みと併せて、設備・体制の見直しがなされ、事業活動の合理化が進められたと感じています。

売上高の減少があり、評価が難しいですが、エネルギー使用量の削減は達成されておりま
す。営業車の燃料使用量の減少、電気使用量は使用される生産機械の種類によって変わりますが大きく削減出来ております。

一方、廃棄物の削減はあまり実績が上げられなかったもので、今後も引き続きの課題です。

今期は生産体制をしっかりと見直して、より合理的な形を追求したいと思います。その為に「製造マニュアル」をベースに各工程の不具合箇所洗い出しや、各種チェックシートなどを使って重要事項やポイントになる数値の記録化が必要です。そして、生産技術に関すること
ころでは記録の蓄積をもとに精度の高い生産を実現することで、使用材料の削減や時間の短縮につなげることが出来ると考えています。

新型コロナウイルスや気候変動によるニューススタンダードが生まれる中、取り組み方法
や基準数値をしっかりと見直す時期に来ていると感じます。「環境負荷削減」の本質を再度考
えて、新しい活動をスタートする年にして行きたいと思います。

代表取締役社長
池畠 正英